

研究教育業績（2014-2018 年度）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

国際誌

査読あり

- 1) Inoue T., Matsuda Y., Sato T., Sakurada C., Haniu H., Tsukahara T., Sigita K., Mabuchi T., Emizu T., Sato K.: The impact of repeated administration of choline on spinal cognitive memory in rats. *Jap. J. Med. Pharm. Sci.* 73(8), 1009-1016(2016) (査読有)
- 2) Nakasone T., Sato T., Matsushima Y., Inoue T., Kamei C., Characteristics of scratching behavior in ADJM mice (atopic dermatitis gtom Jananese mice), *Immunopharmacol. Immunotoxicol.*, 37(2), 202-206(2015) (査読有)
- 3) Mizoguchi H., Takagi H., Watanabe C., Yonezawa A., Sato T., Sakurada T., Sakurada S., Involvement of multiple μ -opioid receptor subtypes on the presynaptic or postsynaptic inhibition of spinal pain transmission. *Peptides*, 51, 15-25(2014) (査読有)

邦文誌

査読あり

- 1) 井上俊夫、松田佳和、佐藤卓美、櫻田誓、羽二生久夫、塚原完、杉田和夫、馬淵知子、江水保、佐藤和三郎：ラットの空間認知記憶に及ぼすコリン塩化物長期摂取の影響. *医学と薬学* 73(3) 1009-1016 (2016) (査読有)

[著書]

- 1) 佐藤卓美（分担）：わかりやすい疾患と処方薬の解説 [病態・薬物治療編]、アークメディア(2018)

[その他]

- 1) 薬物治療学 I・IIA・IIB サブノート
- 2) 血液・造血器疾患と薬サブノート
- 3) 悪性新生物と薬サブノート

2. 主な学会発表

[国内学会]

一般発表

- 1) 齋藤博、市原里沙子、海野由希子、井上紅音、大貫和真、山田峰穂、堀口大地、栗原敬昌、松原弘志、佐藤卓美：災害時のための患者情報保管の検討、日本薬学会、3月、千葉（2019）

- 2) 齋藤博、小西恵理、田所真一、松田佳和、佐藤卓美：避難所における服薬状況確認システムの構築、日本災害医学会、3月、米子（2019）
- 3) 和田重雄、齋藤博、福嶋仁一、佐藤卓美：日本薬科大学薬学科の初年次教育、初年次教育学会第11回大会、9月、江別（2018）
- 4) 齋藤博、岡村祥太、石井優大、市原里沙子、稲葉由華、寺田大貴、海野由希子、和田重雄、木村道夫、千葉輝正、中村有貴、小川晴久、亀卦川誠也、根岸新一、足立哲也、新井利次、山崎敏彦、大野元彦、田端健治、福嶋仁一、松田佳和、佐藤卓美：日本薬科大学における基礎学力養成のための取り組みー基礎学力養成プログラムの実践と評価 第1報ー、第3回日本薬学教育学会、9月、東京（2018）
- 5) 和田重雄、木村道夫、齋藤博、小川晴久、亀卦川誠也、根岸新一、足立哲也、新井利次、山崎敏彦、大野元彦、田端健治、福嶋仁一、千葉輝正、中村有貴、佐藤卓美：日本薬科大学における基礎学力養成のための取り組み 2ー基礎学力向上プログラムの実践と評価ー、第3回日本薬学教育学会、9月、東京（2018）
- 6) 齋藤博、岡村祥太、千葉輝正、中村有貴、足立哲也、新井利次、小川晴久、根岸新一、山下裕、亀卦川誠也、杉田一郎、山崎敏彦、野澤直美、木村道夫、佐藤卓美：薬学部における低学年のためのアクティブラーニングの実践、日本薬学会第138年会、3月、金沢（2018）
- 7) 齋藤博、石井優大、市原里沙子、稲葉由華、寺田大貴、岡村祥太、中山季昭、浅野稔浩、高橋直之、松田佳和、佐藤卓美：学生の実務実習時におけるダイワファーマガードを用いた抗がん剤調剤の提案、第2回薬学教育学会大会、9月、名古屋（2017）
- 8) 井上俊夫、松田佳和、佐藤卓美、江水保、佐藤和三郎：ラットの空間認知記憶に及ぼすコリン塩化物反復投与の影響：第25回神経行動薬理若手研究者の集い、3月、横浜（2016）
- 9) 仲宗根佑、佐藤卓美、井上俊夫、松島芳文、亀井千晃：事前発症アトピー性皮膚炎マウス（ADJMマウス、TRAF3IP2/Act1欠損マウス）の搔痒行動の特徴：第53回日本薬学会中四国支部大会、11月、広島（2014）

3. その他特筆すべき研究業績

特になし

II. 教育業績

1. 担当授業科目

2018年度

- ・血液・造血器系疾患と薬（3年後期 15コマ）
- ・悪性新生物と薬（4年前期 15コマ）
- ・がん薬物療法学（5年後期 10コマ）
- ・薬学総合演習Ⅰ（4年後期 1コマ）
- ・薬学総合演習Ⅱ（6年前期 2コマ、後期 2コマ）
- ・患者の安全と薬害防止（3年前期 11コマ）

2017年度 血液・造血器疾患と薬（3年後期）、がん薬物療法学（5年後期）

2016年度 薬物治療学ⅡA（3年前期）、薬物治療学ⅡB（3年後期）、がん薬物療法学（5年後期）

2015年度 薬物治療学Ⅰ（2年後期）、薬物治療学ⅡA（3年前期）、がん薬物療法学（5年後期）

2014年度 薬物治療学Ⅰ（2年後期）、薬物治療学ⅡA（3年前期）

2. その他特筆すべき教育業績

特になし